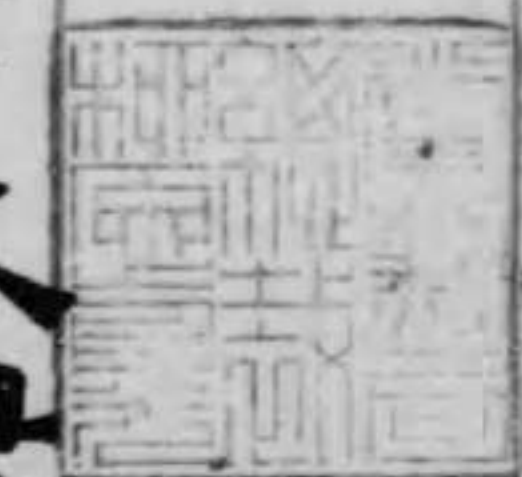


己賞勳局布第七五號

明治廿二年七月八日

内閣總理大臣

賞勳局總裁



帝國憲法發布ノ儀ハ曠世ノ大典ナリ
即チ此光榮ヲ記念セシムル一程ノ記事
ヲ制定セシ儀式ニ参列并觀兵式ニ出場
セシモノ頌テ金製ハ皇族銀製ハ内外
臣僚ニ與ヘラレ候ヘハ適當ト存候外國ニ於
テモ帝王即位戴冠憲法發布等ノ諸大
禮舉行スル方リ特ニ記事ヲ製衣造シ之ヲ

頒授候例數多有之候仍テ勅令案及
記章圖樣ヲ具シ外國事例ヲ附シ謹テ
允裁ヲ仰ク

追テ本件御允裁濟記章製造費ハ帝
室費ヨリ支出可相成旨宮内大臣ト協
議相濟候条此段俟テ上申ス

勅令案

朕帝國憲法發布記念章制定ノ
件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年八月二日

内閣總理大臣

勅令第三百三號

第一條

第一條 日本帝國憲法發布記念章ハ

頒授候例數多有之候仍テ勅令案及
記章圖樣ヲ具シ外國事例ヲ附シ謹テ
允裁ヲ仰ク

追テ本件御允裁濟記章製造費ハ帝
室費ヨリ支出可相成旨宮内大臣ト協
議相濟候条此段候テ上申ス

勅令案

朕帝國憲法發布記念章制定ノ
件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年八月二日

内閣總理大臣

勅令第三百三號

大日本帝國憲法發布記念章ハ

金銀ノ兩種トス

第二條 記念章ヲ頒賜スルハ憲法發布式

ニ関リタル親王以下ノ諸負ニ限ル

除

第三條

第三條 記念章ノ圖減左ノ如シ

章

圓形經九分餘金若クハ銀
輪廓内表面ニ菊御紋ト高御座是大勲位菊花頸飾章
ノ圖裏面ニ明治二十二年二月十七日大日本帝國憲法發布記
念章ノ二十三字ヲ識ス

環 圓形 金若クハ銀

綬 幅一寸二分旭日桐花章ノ綬ヲ用ユ

第四條

第四條 此記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子
孫之ヲ保存スルヲ許ス其之ヲ沒收スルノ
事項ハ明治十四年(十二月)第六十三号
布告褒章條例ニ據ル

金銀ノ兩種トス

第二條 記念章ヲ頒賜スルハ憲法發布式

ニ関リタル親王以下ノ諸負ニ限ル

除

第三條

第三條 記念章ノ圖式左ノ如シ

章

圓形 經九分餘 金若クハ銀

輪廓内表面ニ菊御紋ハ高御座是大勲位菊花頸飾章ノ圖裏面ニ明治二十二年二月十七日大日本帝國憲法發布記念章ノ二十三字ヲ識ス

環 圓形 金若クハ銀

綬

幅一寸二分 旭日桐花章ノ綬ヲ用ユ

第四條

記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルヲ許ス其之ヲ沒收スルノ事項ハ明治十四年(十二月)第六十三号布告褒章條例ニ據ル

大日本帝國憲法發布記念章ノ圖



憲法發布記念章佩用式

一 綬ヲ用テ左胸ニ佩フ

一 記念章ヲ四等以下ノ勲章若クハ記
章褒章ト俟佩スル時ハ勲章ノ左
記章褒章ノ右ニ列シテ佩フヘシ

參照

歐洲各國ノ章牌ハ種別多シト雖氏大典ノ節賜與
セラレタルモノ内數種ヲ參考ノ為メ左ニ撮記ス
（一）千八百六十二年三月廿二日キヨニスベル宮城ニ
於テ施行サレタル普漏生國王ギヨーム第一世陛下
ノ即位式ニ列シタルモノ即チ上皇族ヨリ下舍人兵
卒ニ至ル迄金製ノ章牌ヲ賜ヒタリ而シテ其綬ハ黑
鷲勲章ニ附着セルモノト同品ナリ

（二）千八百七十九年六月十一日獨シ皇帝ギヨーム第一
世陛下及皇后アオグスター陛下ノ金婚祭結婚五
シ施行サレタル節其式ニ列シタルモノ即チ上皇族ヨ
リ下舍人兵卒ニ至ル迄金製ノ章牌ヲ賜ヒタリ尤モ
此章牌ハ即位式ノ分トハ其模様ヲ異ニセリ而シテ

其綬ハ黑鷲勲章ニ附着セルモノト同品ナリ

(三) 千八百八十三年一月二十五日獨乙皇太子フレデリックウイイルヘルム殿下同妃ウイクトリヤ殿下ノ銀婚祭^{結婚ニ}ノ式ニ列シタルモノ即チ上皇族ヨリ下舍人兵卒ニ至ル迄銀製ノ章牌ヲ賜ヒタリ

(四) 千八百八十三年露國皇帝アレキサンドル第三世陛下及皇后マリヤ陛下即位ノ節參列ノ諸員ニ金製或ハ銀製ノ章牌ヲ賜ヒタリ

(五) 千八百八十七年英國女王ウイクトリヤ陛下ノ即位五十年祭ノ節其式ニ列シタルモノ、内自國ハ勿論在外國ノ親戚タル君主及皇族ニ金製ノ章牌ヲ與ヘ其他ハ總テ銀製ノ章牌ヲ賜ヒタリ

(六) 千八百六十六年二月十九日露國皇帝アレキサン

ル第二世陛下カ「エマインパツシヨンド、ペイゾ」^{露國ニテハ從來農民ハ總テ君主ノ地ヲ耕作シ地頭ノ壓制ノ下ニ立チ雇使セラレ毫モ人タル自由ヲ得サレシガ此日陛下ハ之ヲ禁壓ヲ辭キ自由ヲ付與セラレタル大典ナリ}ノ式ヲ施行サレタル節皇族及最高等官ハハ金製其以下ノ者ハハ銀製ノ章牌ヲ賜ヒタリ而シテ此等ノ綬ハ紫色ナリ

(七) 千八百八十九年一月十四日「ベルグラド」發ノ電報ニ曰ク「セルビヤ王國ハ新憲法發布ノ記念トシテ銀製ノ章牌ヲ發行スルノ勅令ヲ官報ニ登載セリ而シテ此章牌ハ此憲法草案ヲ假議院ニ提出ノ節之レニ關係シタル政府ノ官吏假議院ノ代議人憲法發布ノ委負及假議院ノ代議人ヲ撰擧シタル主任者其他等ヘ付與サル、モノナリト」^(近著ノ獨逸新聞ヨリ抄拔ス)

局甲一一六

明治廿二年七月十二日

内閣總理大臣

法制局長官

各省大臣

外務	大藏	海軍	文部	逓信
内務	陸軍	司法	農務	

別紙賞勳局總裁具申ノ趣ヲ案スルニ
帝國憲法發布式ニ恭列并觀兵式
ニ出場セシモノハ此光榮ヲ記念セシムル
為ノ一種ノ記章ヲ制定シ之ヲ頒賜セ

清

ラレントスルハ至極當然ノ事トス仍テ皇
案附箋通ニ可然ト認ム
勅令案
呈案附箋ノ通

参照

廢賞條例

第四條 廢章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ
及ビ徽號トナスヲ得然レモ重罪ノ刑ニ處セラレタル
トキハ之ヲ沒收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑
ニ處セラレタル者ニハ之ヲ授與ス

濟

賞勲局由第一三〇號

明治廿二年十一月廿一日

内閣總理大臣

賞勲局總裁

本年八月二日勅令第百三號ノ趣旨

ニ依リ憲法發布記念章製造

出来候ニ付談式ニ關リタル親王以下

奏任官ノ待遇ヲ受クル者及府縣会

議長ニ至ルヲ漸次授与可取計候

此設上申ス

但人名ノ儀ハ授与濟上申可仕候

乙五五

此段副申ス

官報抄録

勅令第百三號大日本帝國憲法發布紀念章出来ニ附
キ一昨二十五日賞勲局總裁ヨリ宮内省ヲ經テ天皇
皇后兩陛下ヘ奉呈相成リタリ

校正
小
原
一
郎